

ワシントン駐在 活動記録

平成31年(2019年) 1月5日(土)～1月18日(金)

(1) シンポジウムの傍聴(8日)

韓国経済研究所米国及び笹川平和財団米国が主催するシンポジウムに参加しました。

「北東アジアと新たな議会」と題するシンポジウムで、昨今の中間選挙で民主党が下院過半数となり、ねじれ国会となったことを受け、トランプ政権が政策を進める上で支障がなかった過去2年間と比べ、今後、下院民主党がトランプ政権の北東アジア主要政策にどう影響するか(北朝鮮の核・ミサイル事業の解体、対中通商政策等)、トランプ政権がねじれ国会とどう取り組むか等について、識者が考えを述べるもので、北朝鮮問題、対中国の通商政策、来る在日米軍駐留経費負担の交渉、北朝鮮による日本人拉致問題、マティス国防長官辞任の影響等、幅広く意見が交わされました。

会場との質疑応答では、米国の経済政策及びそれが東アジアの安全保障状況に与える影響について、当方ワシントン駐在からも質問しました。



(2) シンポジウムの傍聴（9日）

CSIS（戦略国際問題研究所）が主催するシンポジウム（「2019年米日安全保障セミナー～同盟にとっての課題と機会～」）に参加しました。米朝首脳会談がまたある場合どういった展望があるか、対北朝鮮の抑止力の必要性、日韓関係、北朝鮮の非核化及びその定義、中国の人口島、日米通商関係、沖縄問題等について幅広く議論が交わされました。

会場との質疑応答では、沖縄の人たちに思いを寄せるということについて、当方ワシントン駐在からも質問しました。



(3) シンポジウムの傍聴（16日）

CSIS（戦略国際問題研究所）が主催するシンポジウムに参加しました。「平成31年度以降に係る防衛計画の大綱について」と題し、岩屋毅防衛大臣が講演し、質疑に応じるものでした。講演の最後、辺野古の埋め立て作業の開始について言及がありました。